



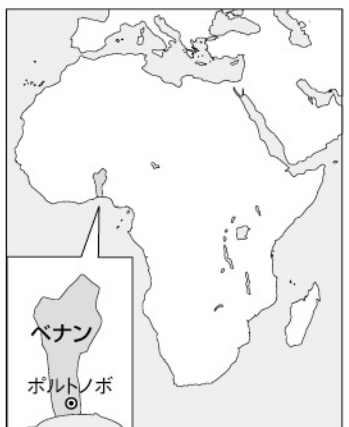
ユニセフと地球の子どもたち ⑭

http://www.unicef.or.jp

ペナン
Republic of Benin

外国で働けば豊かな生活
信じて子どもを売る親も

アフリカのペナンでは、子どもたちがよその国で働くために売り買いされてしまうことがあるんだ。それは、暮らしがきびしく、子どもがよその国で働いたほうがいい生活が送れると考える親たちがいるからなんだ。でも、実際の労働はつらいし、危険がいっぱい。十歳の男の子、ロベールくんのお話を聞いてみよう。



二か月前、村に知らない男の人たちがやってきて、ぼくの両親にお金をわたした。そして、ぼくは男の人たちによその国へつれていかれて、石を切り出す仕事をするとで働くようにいわれたんだ。ぼくの村はとても

長い時間働き たびたびけ

仕事はとてもつらかった。毎日、朝早くから夜おそくまで働かされた。石を細かくくるときには力があるし、小さな破片がとびちって、顔にけがをすること

「貧しい村より」とぼくも外国へ でもつらい仕事…保護され家へ



笑顔を見せるペナンの子どもたち ©日本ユニセフ協会

もよくあった。ぼくみたくに、よその国から来た子どもがたくさんいたけど、みんなで笑っておしゃべりすることなんて一度もなかった。



ここでぼくが働いている間に、ユニセフの人が村に来て、大人たちに、子ども

がよその国で働くことがどんなに危険なことかを話したん

センターというところへつれていかれた。センターの人は、「きみたちはもう働かなくていいんだよ。家に帰れるようになるまで、しばらくここで生活しようね」といってくれた。



センターでは、たくさんご飯を食べることもできたし、勉強も教えてもらった。いっしょに生活している友だちと遊んだりもしたよ。字の読み書きや計算が

掲載は一週おき。次は二十日の予定です

ユニセフと
いっしょに
石川県辰口町和気小
十五円は、ユニセフに送りました。
きっかけは朝小の
イラクの子どもたちのために募金活動
記事。ユニセフのコーナーのお話や、本のコーナーで紹介された絵本『ぼくの見

んのつくった募金箱をお店に置いてもらおうと考えました。「わたしも小さな平和のたねをまくとができます」と
萌子さん、恋雪さんは「同じような気持ちの子たちにも行動してほしい」と話しています。



募金箱を手にする萌子さん。左は恋雪さん、右はスーパーの店長さん

世界のすべての子どもは「権利」をもち、「子どもの権利条約」に守られています。

第三十五条は「ゆうかい・売買からの保護」についてうたっています。国は、

子どもの権利条約

かせるため外国に売られてしまう子どもたちがいます。ユニセフは、子どもたちが売買されないように政府に働きかけ、ゆうかいされた子どもたちを国にもどす活動をしています。

もっと 知リたーいー

ストリー
トチルドレ

ストリー
トチルドレ

ストリー
トチルドレ

ストリー
トチルドレ

ストリー
トチルドレ

ストリー
トチルドレ

ストリー
トチルドレ

ストリー
トチルドレ

ストリー
トチルドレ

ストリー
トチルドレ

ストリー
トチルドレ

ストリー
トチルドレ

ストリー
トチルドレ

ストリー
トチルドレ

ストリー
トチルドレ

ストリー
トチルドレ

ストリー
トチルドレ

路上で働いたり暮らしたり 危険に満ちた子1億人こす

路上での生活は、不衛生など、健康に害を及ぼす。また、交通事故に巻き込まれたり、だまされてゆうかい

されたりする危険にみちています。こうしたきびしい状況の中でくらしている子どもたちは、世界に一億人以上いるといわれています。

